



普段着の私



西病棟看護師 坪田憲明、山下哲平

同僚である山下氏と休みが合えば、共通の趣味である釣りのため、姫路の妻鹿から渡船で沖の一字に渡ります。(2人以上でないと渡船してもらえません) 今回も朝5時に集合し、異常に多くの撒き餌を購入し(約6キロ) ふらつきながら船に乗ります。釣り場に着くと、いつもの通り、ボラまみれである。嫌な予感がするが準備し仕掛けを投入。程なくして山下氏がテトラポットの上を華麗なステップで移動している。近づく、竿は弓なりで開口一言。「やばいです。リールのドラッグが壊れた。腕と、身体と、膝のパネを使って・・・」と叫んでいる、まるで「部屋とYシャツと私」状態の意味不明の発言である。推定70cm程の巨ボラと近接格闘を僕は見守りました。結局逃げられましたが、山下氏いわく「夏のボラはファイターや、めっちゃ突っ込む、エド山口ばりのいなし方やったやろ」と興奮気味。その後も正午までボラの猛攻に遭いましたが、何本かは無事キャッチできました。しかしながら、夏のボラはとても臭いのです。めっちゃくちゃ臭いのです。最新の文明の利器ファブリーズも無力です。なのでさっさとリリース。釣りでのボラは厄介者ですが、今回ボラとの格闘を通してスポーツフィッシングとして目を向けても良いのではないかと思います。今日遊んでくれたボラさんありがとう。もう釣れないでね!!



巨ボラと格闘中の山下氏



40cmのボラゲット!!



ボラばかりじゃん↓↓

植物のある暮らし

菊と彼岸花

園芸療法士 黒部 一之



重陽(ちょうよう)は、五節句のひとつで、9月9日のこと。旧暦では菊が咲く季節であることから菊の節句とも呼ばれます。邪気を払い長寿を願って、菊の花を飾ったり、菊の花びらを浮かべた酒を酌み交わして祝ったりします。また宮中の儀式として、重陽の節句に菊の着綿といって、前夜に菊の花に真綿をかぶせ、染み込んだ夜露で身体をぬぐい健康を祈ります。その際、天皇が臣下に菊を浸した酒を下賜し、身体を労わります。我々庶民も、菊の花びらを浸した水で仕込みをすることで有名な加賀の菊酒で、今宵も一献。

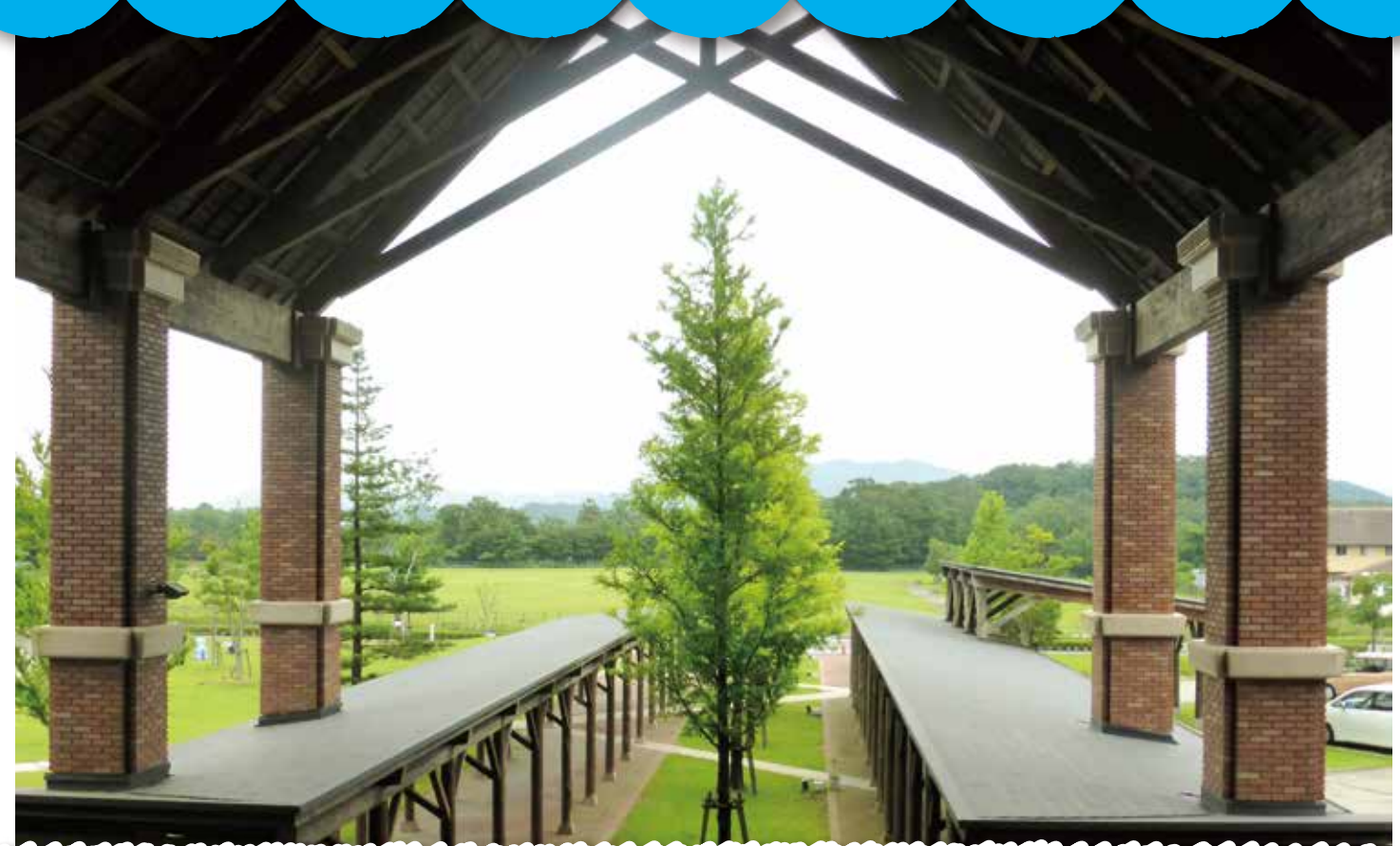
彼岸(ひがん)は、春分・秋分を中日とし、前後各3日を合わせた7日間(1年で計14日間)です。この期間に行う仏事を彼岸会(ひがんえ)と呼びます。春分と秋分は、太陽が真東から昇り、真西に沈むので、西方に沈む太陽を礼拝し、遙か彼方の極楽浄土に思いをはせたのが彼岸の始まりです。いつの間にか生を終えていった祖先を供養する行事として定着するに至りました。彼岸花は曼珠沙華(マンジュシャゲまたはマンジュシャカ、サンスクリット語manjusakaの音写)とも呼ばれます。9月中旬に赤い花をつけますが、稀に白いものもあります。全草有毒で、特に鱗茎にアルカロイドを多く含む有毒植物で、経口摂取すると吐き気や下痢を起こし、ひどい場合には中枢神経麻痺を起こし死に至ることもあります。また彼岸に供え物として作られる「ぼたもち」と「おはぎ」は同じもので、これらの名は、彼岸の頃に咲く牡丹(春)と萩(秋)に由来します。甘党の方は、ご家族団欒で作ってみてはいかがでしょうか。



リハビリテーション西播磨病院だより

ひがりの都

2015年
9月発行



高原の秋

管理局長 永良 新



今年の夏も近年恒例となったうんざりするような猛暑が続きましたが、ようやく暑さも一段落し、高原に位置する当リハビリテーション西播磨病院では、下界より一足早く、豊かな自然の中のそこかしこに秋の気配が色濃く感じられる季節となりました。

私は、今年の4月から西播磨病院で勤務しております。患者さまや地域の皆さまと直接接する機会は少ないのですが、皆さまのご要望にできる限りお応えし、よりよいサービスが提供できますよう、健全な病院運営に努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

さて、平成18年7月に開院いたしました当西播磨病院は、緑豊かで広大な敷地の中に、多くの木材や煉瓦を使用した建物を配置し、病室にも木を多く使用し広い窓を設けるなど、患者さまが長期間のリハビリに取り組まれるには最適の、ぬくもりのある環境を整えた施設であると自負しております。

また、リハビリテーションの医療内容についても、神経疾患や高次脳機能障害などの高度で専門的なリハビリに対応し、園芸療法等の先進的なリハビリにも取り組んでまいりました。さらに、西播磨圏域の指定を受けた認知症疾患医療センターの開設や、退院後の患者さまのフォローアップ外来等に取り組んできた結果、今ではほぼ満床に近い状態が続くほど、多くの患者さまにリハビリに取り組んでいただけるようになりました。

今後も、総合リハビリテーションの全県拠点施設として、リハビリに関する先進的な医療に取り組み、地域や県民の皆さまによりご満足いただけるよう、職員一同努力してまいりますので、変わらぬご支援をお願いいたします。

9月26日(土)には、患者さまと地域の皆さまがふれあい、交流いただくイベント「ふれあいリハフェスタin西播磨」を開催する予定です。是非、多くの地域の皆さまにご参加いただき、ともにさわやかな高原の秋を楽しんでいただければ幸いです。

Play Sport

西播磨総合リハビリテーションセンター
ふれあいスポーツ交流館

TEL 0791-58-1313
FAX 0791-58-1323

〒679-5165 たつの市新宮町光都1-7-1

“おんせん”と“うまいもん”でおもてなし

松葉ガニ、ホタルイカ水揚げ量日本一!
山陰浜坂



あじさいプラン
平日1室2名様利用、1泊2食付
大人お一人様(60歳以上の方)

6,450円 (税込)

浜坂温泉保養荘

※いろいろなプランがあります。詳細はHPをご覧ください!

<http://www.hamasaka-ni.com/>

〒669-6702 兵庫県美方郡新温泉町浜坂775
TEL 0796-82-3645 FAX 0796-82-3647

西播磨病院に赴任して

私は平成20年に徳島大学を卒業し、神戸の甲南病院で初期研修を行い、前任の東加古川病院で専門医研修を終えた精神科医です。前任では主に精神科急性期病棟を担当し、比較的重度の幻覚妄想状態や気分障害、行動異常を有する患者様の治療にあたってきました。その中には老年期の精神障害の方も多くいらっしゃいましたが、BPSD（心理・行動障害）の治療がメインであり、正確な診断にまでたどり着けなかった患者様も多かったように思います。当院ではもの忘れ外来を担当させていただいており、MCI（軽度認知障害）や初期の患者様も多く、これを機に視野を広げられればと思っております。また認知症疾患医療センターにおいては地域の自治体や医師会の皆様方の協力を得ながら、地域の方々が安心して暮らせる認知症医療に貢献していきたいと思っております。私にとってリハビリテーション病院での勤務は初めてで、病棟業務ではまだまだ慣れないことが多いですが、多職種と連携しながら少しでも多くの患者様のリハビリを達成できればと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



精神科医長 兼
認知症疾患医療センター医長
藤田 純

当院の訪問事業について

総合相談・地域連携室

みなさんは病院で訪問という言葉に耳にされたことがあるでしょうか。訪問と聞くと介護保険での訪問リハビリテーションをイメージされる方が多いと思いますが、当院で行っている訪問は、実際にリハビリテーションを行う訪問とは異なります。いくつかの訪問事業を行っていますので紹介させていただきます。



○入院時訪問

自宅復帰を目標としたリハビリテーションでは、実際の家屋環境を想定した練習や家屋環境の調整が必要となる場合があります。その際は、自宅の間取りや段差・手すりの有無、家屋の写真などをご家族様に準備いただきます。しかし、慣れない作業であるため準備に時間がかかることや十分な情報を準備出来ないことがあります。

入院時訪問では、理学療法士・作業療法士が自宅を訪問させていただき家屋の情報収集を行わせていただきます。

○退院前訪問

さまざまな病気によって健康な時との身体機能の変化がみられ家屋環境の調整が必要となる場合があります。その際、本人様の自宅への外出に理学療法士・作業療法士が同行しトイレ動作や入浴動作の確認・自宅での過ごしやすさなどの評価を行い、改修が必要な場合は手すりの設置位置や福祉用具の導入についてアドバイスをさせていただきます。

○退院後訪問

当院を退院された患者様で屋内を移動しづらい・トイレ動作に困る・改修した環境を使用できていないなどお困りのことがある際に看護師・理学療法士・作業療法士が自宅を訪問し、日常生活動作（トイレ・入浴・食事など）や介護保険などのサービス利用の確認・アドバイスをさせていただいています。

○入院前訪問

急性期病院に入院中の患者様の自宅に看護師・理学療法士または作業療法士が訪問し、発症されて間もない患者様の状態を把握します。訪問にて得た情報を当院に転院された後の看護ケア・リハビリテーションに活かしています。

このように当院では、入院前から退院後にわたり急性期病院での状態把握や在宅での生活支援と継続的に関わることで患者様の住み慣れた自宅への復帰を支援しています。在宅復帰された方は我々病院のスタッフの想定を越え活動的な生活を送られている方もおられ、生活の知恵・工夫などを学ばせていただくことも多く他の患者様の支援に活かしていきたいと考えます。



『西播磨認知症オレンジライフサポート』って何のこと?? (シリーズ第2回)

高齢化に伴い、10年後の2025年（平成37年）には、認知症の人とその予備軍が約700万人（65歳以上の約5人に1人）になると推計されています。国は今年認知症施策である“新オレンジプラン”を発表しました。

新オレンジプランの中で示されている、認知症の状態に応じたサービス提供の流れを示したものを『認知症ケアパス』と呼びます。

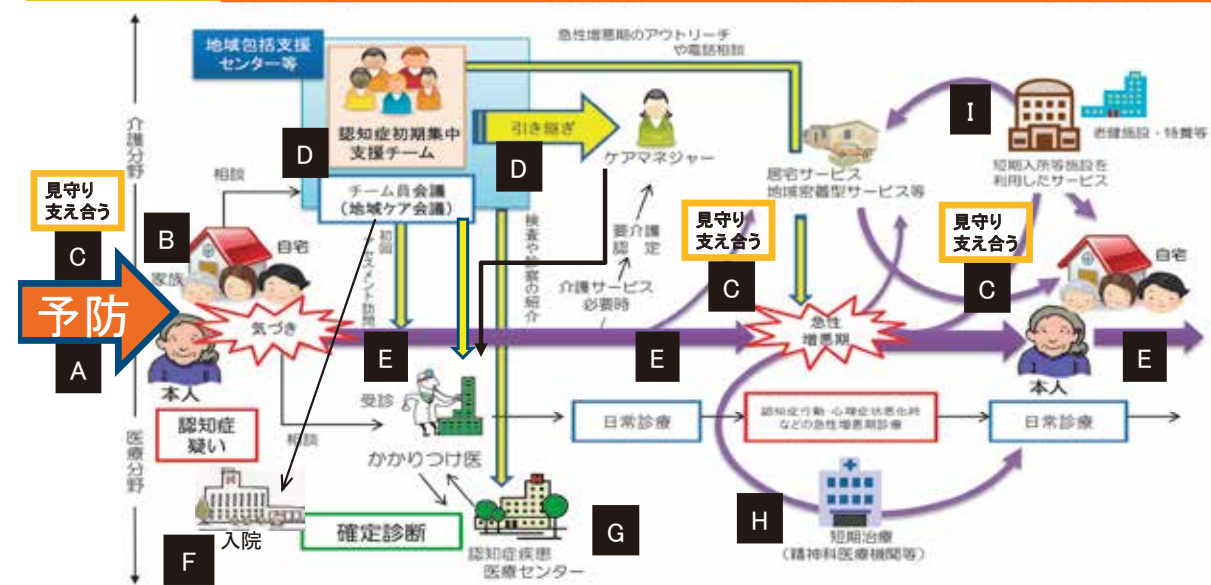
兵庫県では、『認知症ケアネット』と呼ばれており、西播磨では『オレンジライフサポート』と愛称を付けました。

Hyogo Prefectural Rehabilitation Hospital at Nishi-Harima

兵庫県
西播磨

西播磨オレンジライフサポート

認知症の容態に応じた適切なサービス提供の流れのことで、国でいう認知症ケアパスの西播磨版です。
～できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けるために～



厚生労働省資料一部改変 Tatsuya Kakigi, MD, PhD

簡単に言うと、

“認知症のことで困ったときに、どのような状況のときは、どこに相談したらいいか”
が分かるように、認知症の状態ごとの情報が整理されています。ぜひご活用ください。

「もしかして…もの忘れ？」
「認知症かもしれない」

B：気づき（もの忘れコールセンターなど）
D：介護分野相談先（地域包括支援センターなど）
E：医療分野相談先（かかりつけ医など）
G：認知症疾患医療センター



「介護保険について知りたい、利用したい」

D：介護分野相談先（地域包括支援センターなど）
I：介護サービス（デイサービスなど）

「認知症を予防したい！」
「元気に暮らしたい！」

A：予防（介護予防教室、体操教室、プールなど）
C：見守り支えあう（認知症カフェなど）

- 🌱 認知症疾患医療センターでは、もの忘れ相談（専門医療相談）を行っています。窓口またはお電話にて、お問い合わせください。【電話：0791-58-1092】
- 🌸 もの忘れ外来の診療受付で、オレンジライフサポートをご覧いただけます。
- 🌸 相生市、たつの市、赤穂市、宍粟市、太子町、上郡町、佐用町のオレンジライフサポートは、認知症疾患医療センターのホームページからダウンロードできます。
http://www.hwc.or.jp/nishiharima/hospital/departament/NCDMC/orangelife_support/